

まごころだより

2020年 9月号

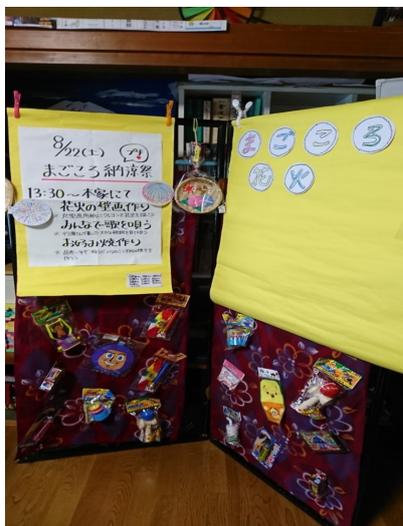
コロナ感染拡大を恐れて、ほとんどの人はその防止に強い意識を持って行動をとってきました。身近なところでの感染情報を知らされると、ますます恐怖心が膨らんでどうしたら良いのか分からなくなってしまう。家族のだれかしら仕事をし、買物して日々生活をつないでいる。そうした行動には必ず他者との接触や接近があるはず。避けられない接触があっても、みんなできる限りの対策をとって行動をしています。



このような状況で高齢の方はどうされているのでしょうか。高齢者と言っても元気で自由に行動できる方や介護が必要な方とかとても幅が広い。例えば“元気で普通に行動できる方”は日々をどのように過ごされているのだろうかと思った。楽しみの一つは買物だろうと思うが、それ以上の楽しみは自分のしたい事がある人や趣味を持っている人でしょう。そういう人は自由に時間を使って過ごされている。一人でも

出来る作業や親しい仲間との会話の場があったり、共通の趣味を持った友人達と過ごす時間をもっていたり、そして自分を必要としてくれる場所がある人などはそれを生き甲斐にされているはず。しかし周りの人は、今はコロナが怖いから人が多く集まる所に行かない方がいいとか、趣味は分かるけどやめておいた方がいいとか、どれもこれも否定するようなことを言われると、気持ちが落ち込んでしまい精神的に追い込まれてしまいそうです。

コロナは自分が大切にしてきた時間や場所までも奪おうとしている。そうするとストレスがたまって何時にも無く感情的になったりする人もいます。そのように大変な状況だとわかっているのですが、つい他者や物にあたってしまうのでしょうかとても悲しいことです。高齢者がおられる家族の方には普段から言葉を交わし、少しでもその方の気持ちを理解してあげることも必要なのではないかと思います。



8月には恒例の納涼祭を行うところでしたが、今年は残念でしたが取り止めにしました。このお祭りほど三密になることが避けられないためです。来年は開催できればいいなと思っていますが、今のところそれは分かりません。三密にならないように工夫をして計画できないか考えていきたいと思っています。その時はお知らせしますのでよろしくお願ひします。

